

琉球大学学術リポジトリ

舞踊の鑑賞構造に関する研究 2

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2014-11-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 光子, 大城, 昭子, Kinjo, Mitsuko, Oshiro, Akiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/29838

舞踊の鑑賞構造に関する研究 II

金城 光子 大城 昭子

A study of patterns of appreciation of dances. [II]

Mitsuko Kinjo Akiko Oshiro

※ Phys. Educ. Coll. of Edu., Univ. of the Ryukyus

The purpose of this study was to formulate a standardized and reproducible format for the objective evaluation of dances.

Forty-eight evaluators were asked to codify twenty different dances using a scale which contained seven gradations. Within each dance there were forty separate parameters considered. Thus evaluation correlations for each gradation in the scale could be extracted from the total data ($40 \times 20 \times 48$) that had been collected.

The findings were analyzed with axial rotation according to the Varimax method, accordingly the scales were grouped in five dimensions. Each load factor was found to be over ± 0.5 . Three fundamental patterns of appreciation of dances were extracted from each dimension of these scaling groups. They were termed as "evaluation," "dynamics," and "clarity" respectively. Since these three dimensions of scaling group maintain an independent rectangular relation respectively, they do formulate Euclidean geometrical space.

By locating any dances in such a space as to be prescribed by these dimensions, it is possible to study characteristic relationships among any dances in their appreciation. At the same time, three dimensions of scaling group also enable one to formulate a new scale method.

A further study concerned with the development of this new scaling method for the comparative assessment of dances could be done.

I はじめに

動的なものを美的に訴えようとする身体的表現である舞踊芸術という概念の分析のために、舞踊における“美的要因”と“美的鑑賞”に関して、その鑑賞構造の解明を試みることを目的として本研究をすすめるものである。研究の方法として、Osgoodの意味微分法を適用する。

すなわち、舞踊に用いられた多様な“ことば”の中から評定語を選定し、舞踊作品を刺激対象として、形容語対により評定させ、その結果をバリマックス法により尺度のグルーピングを試みるものである。

この方法によって、研究Ⅰでは、舞踊という概念を受け手である鑑賞者が、どのようなイメージ・印象として感じ、受けとめているかについて、鑑賞構造を確かめるために、20個の作品別にデータを処理し、作品別の鑑賞構造の内容を検討した。それは作品別に分析されたデータにもとづき、各作品の第Ⅰ次元から第Ⅲ次元の尺度グループの構造をみたものであった。

その結果は、作品のそれぞれについて、ほとんどの尺度が第Ⅰ次元に集中し、鑑賞構造の共通性を示しながらも、第Ⅱ、第Ⅲ次元においては作品個々の特性がみら

れた。このことは評定する人の態度をプロットするもので作品によって分類原理が違うように思われるということ、この原理では、めざすところの舞踊の共通の尺度グルーピングが不可能であり、鑑賞構造を明確に解明することがむずかしいという結論に達した。

したがって、舞踊芸術という概念の総合的なものとしての鑑賞構造の解明をさらにすすめる必要があること。それは標準化されたものにまで高める必要があるものとして分析Ⅱとしての本研究に着手することになった。

前述の舞踊作品のイメージ・印象、受けとめ方は多様であり、その“鑑賞のことば”も多様である。しかしながら、その受けとめ方は、差異性を示しながらも共通的な面があることが研究Ⅰの結果から確かめることができた。

本研究は、前述したように、分析Ⅱとして、研究Ⅰに引き続き、同様のデータ処理をほどこし、20個の作品の平均値を個々の作品の特性を表わすものであるとしての解釈のもとに、作品をプールにしたデータ処理の方法を試みることにした。

この原理によって、① 舞踊の鑑賞構造をより明確に解明することができるだろう。② その結果は、ジャンルの違う舞踊にも適用できる標準化、一般化された尺度

の体系化を試みることを可能にするだろう。このような仮定にもとづいて解明された鑑賞構造は、舞踊の鑑賞の方向を示す舞踊空間を仮想的に設定することを可能にするだろう、と思われる。

Ⅱ 研究の方法

本研究の方法は、研究Ⅰと同様に進めた。

- (1) 調査の対象は琉球大学女子学生48人。
- (2) 調査は昭和47年5月実施した。
- (3) 尺度について

評定語は、舞踊の批評文から抽出された“批評のことば”（舞踊の鑑賞語、評価語）3591語、第1次研究^{注1）}の分類結果をさらに分類・分析したものと

づいて、形容語群を対象に頻数2以上の357語を同義・類似語のグルーピングを行ない、代表語を選定したのち、頻数の高い順に40語を用いた。

尺度表は、上記の40語に反対語辞典等によって対語をつけたもので作成した。評定尺度は、7段階尺度であるので、評定の範囲は1～7点で、1は、非常に「おもしろい」を指し、7は、非常に「つまらない」を表わす。

(SAMPLE参照)

SAMPLE

今、見た舞踊の感じや印象を、下記の尺度で評定しなさい。なお、尺度の下記の数字は、およそ次のような程度をあらわすものである。

4……………中位（いずれともいえない）
3と5……………いくらか（～である）

2と6……………相当に（～である）
1と7……………非常に（～である）

1 おもしろい		つまらない	21 動的な		静的な
2 新しい		古めかしい	22 日本のな		西洋的な
3 美しい		みにくい	23 劇的な		劇的でない
4 楽しい		楽しくない	24 正統的な		正統的でない
5 むずかしい		やさしい	25 見応えがある		見応えがない
6 抽象的な		具体的な	26 鮮やかな		鮮やかでない
7 すぐれている		劣っている	27 緻密な		緻密でない
8 よい		よくない	28 変化がある		平板な
9 効果的な		効果的でない	29 満足できる		ものたりない
10 興味深い		興味がうすい	30 はなやかな		はなやかでない
11 印象深い		印象がうすい	31 魅力がある		魅力がない
12 明確な		あいまいな	32 特異な		特異でない
13 視覚的な		視覚的でない	33 軽快な		軽快でない
14 個性的な		個性的でない	34 素直な		いじっぱりな
15 うまい		へたな	35 一貫した		一貫していない
16 独特な		独特でない	36 さわやかな		さわやかでない
17 現代的な		古典的な	37 大きい		小さい
18 力強い		弱い	38 すっきりした		すっきりしない
19 まとまった		まとまりがない	39 明るい		暗い
20 はげしい		おだやかな	40 叙情的な		叙情的でない

注1）金城、松本、池田の共同研究として「舞踊の鑑賞価値基準表作成について—モダンダンスの鑑賞価値—」まとめ、S.46.日本体育学会で金城が口頭発表した。（本誌紀要資料編、舞踊の鑑賞語一覧参照）

(4) 舞踊作品について

刺激対象としての舞踊作品は、1969年第6回国際女子体育会議日本大会で収録された、舞踊実写フィルム

（16mm白黒）のイギリス編、アメリカ編、日本編1・2、琉球・韓国編5個を用い、その中から20個の作品を選定した。（Table 1 参照）

Table 1 舞 踊 作 品 一 覧

作 品 名	国 名	時 間	人 数
① か せ か け	日 本 (沖縄)	6分40秒	1 人
② 浜 千 鳥	〃 (〃)	4' 50〃	1
③ 高 平 良 万 才	〃 (〃)	7' 14〃	1
④ 叙情詩風の作品 A	英 国	3' 04〃	16
⑤ 叙情詩風の作品 B	〃	2' 08〃	16
⑥ ボールによる試み	ド イ ツ	2' 05〃8	10
⑦ ステイック ダンス	〃	2' 47〃9	9
⑧ Solo ダンス	〃	4' 09〃	1
⑨ Duet ダンス	〃	2' 11〃	2
⑩ パッサカリアとフーガ	〃	6' 16〃	9
⑪ 相互に感じ合って動きを創る	米 国	7' 23〃	3
⑫ Dance of Koto music	〃	3' 10〃	3
⑬ フ ァ ス ト	日 本	2' 23〃	3
⑭ 美 し き 天 然	〃	1' 24〃	2
⑮ こ ま の 動 き	〃	2' 00〃	5
⑯ 荒城の月変奏曲	〃	3' 29〃	4
⑰ 太陽とともに	〃	5' 42〃	13
⑱ 青 年	〃	8' 35〃	7
⑲ 花 冠 舞	韓 国	6' 30〃	8
⑳ ニ 僧 舞	〃	2' 06〃	1

(5) テスト用紙は、1枚につき1作品が評定できるように印刷し、20作品（20枚）を1組として記入例をつけて綴ったものである。全被験者800回（20×40）評定した。

間相関行列を求め、これをもとに direct varimax 法により尺度のグルーピングを行なった。20(作品)×40(尺度)×48(評定者)マトリックス。

Ⅲ 結果と考察

(6) データ処理の方法

20作品を1個ずつ固定して評定させ、その結果、作品別の尺度の平均値・標準偏差行列を求めた。

（研究Ⅰのデータ）この平均値を個々の作品の特性を表わすものと解釈して、平均値行列をもとに尺度

【1】 舞踊の鑑賞構造について

1 鑑賞の単純構造

データについては、夫々第Ⅰから第Ⅴ次元まで求められた。その結果は、Table 2 に示すとおりである。

舞 踊 鑑 賞 の 単 純 構 造

Table 2

次 元 尺 度	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	V		原尺度にお ける順位	新尺度にお ける順位
おもしろい	.787	—	—	—	—	.920	1	21
新 し い	—	.857	—	—	—	.841	2	16
美 し い	.859	—	—	—	—	.909	3	15
楽 し い	—	—	—	—	—	.932	4	—
むずかしい	—	—	—	—	—	.804	5	—
抽象的な	—	—	—	—	.807	.993	6	—
すぐれている	.934	—	—	—	—	.955	7	5
よ い	.973	—	—	—	—	.980	8	1
効果的な	.856	—	—	—	—	.947	9	17
興味深い	.868	—	—	—	—	.938	10	14
印象深い	.831	—	—	—	—	.939	11	19
明 確 な	.617	—	—	—	—	.917	12	30
視 覚 的 な	—	.519	—	—	—	.513	13	31
個 性 的 な	—	—	—	—	—	.963	14	—
う ま い	.943	—	—	—	—	.958	15	4
独 特 な	—	—	—	—	—	.938	16	—
現 代 的 な	—	.919	—	—	—	.881	17	7
力 強 い	—	.709	—	—	—	.739	18	24
まとまった	.709	—	—	—	—	.833	19	25
はげしい	—	.808	—	—	—	.838	20	20
動 的 な	—	.876	—	—	—	.921	21	12
※ 日 本 的 な	—	.901	—	—	—	.849	22	9
※ 劇 的 な	—	—	-.738	—	—	.860	23	23
※ 正 統 的 な	—	-.697	—	—	—	.750	24	26
見応えがある	.934	—	—	—	—	.879	25	6
鮮 や か な	.852	—	—	—	—	.925	26	18
緻 密 な	.892	—	—	—	—	.941	27	11
変化がある	—	—	—	—	—	.873	28	—
満足できる	.901	—	—	—	—	.937	29	10
はなやかな	.656	—	—	—	—	.630	30	27
魅力がある	.955	—	—	—	—	.972	31	2
特 異 な	—	—	—	—	—	.976	32	—
軽 快 な	—	—	—	—	—	.908	38	—
素 直 な	—	—	.944	—	—	.955	34	3
一貫した	.621	—	—	—	—	.743	35	29
さわやかな	—	—	.909	—	—	.967	36	8
大 き い	—	—	—	—	—	.803	37	—
すっきりした	—	—	.645	—	—	.670	38	28
明 る い	—	—	.784	—	—	.923	39	22
※ 叙 情 的 な	—	-.876	—	—	—	.889	40	13

※ 印は左右逆転して用いる。

この表は、バリマックス法による舞踊鑑賞の単純構造を示すもので、その基準±0.5以上の負荷量において尺度グループ化した結果を示すものである。第Ⅲ次元までに全体の78%を占めている。

この表からみられるように、第Ⅲ次元までの単純構造が得られたことが確められた。

各次元に含まれている尺度を検討した結果、第Ⅰ次元の尺度グループは17種がまとめられた。それは、“おもしろい” “美しい” “すぐれている” “よい” “効果的な” “興味深い” “印象深い” “明確な” “うまい” “まとまった” “見応えがある” “鮮やかな” “緻密な” “満足できる” “はなやかな” “魅力がある” “一貫した” である。

第Ⅱ次元の尺度グループは9種で、“新しい” “視覚的な” “現代的な” “力強い” “はげしい” “動的な” “日本的な” “正統的な” “叙情的な” である。

第Ⅲ次元の尺度グループは5種で、“劇的な” “素直な” “さわやかな” “すっきりした” “明るい” である。

注2)

2 次元命名について

各次元に含まれる尺度を検討した結果、第Ⅰ次元には「評価性」と命名することが妥当である。この尺度群はみている人の感情を表出し、感情を喚起する快感的性格をもつという解釈ができるだろう、何をさして「よい」というかをつめていくと、固体の生存のプラスにつながる。例えば、“ひもじい”→“たべる”→“快感がある”ということが、のちに価値的なものになるというプロセスで考えると、エバリエーションであるといつてよいと思われる。

また、そのものに好意をよせているか、よせていないか、つまり、態度のプラスかマイナスを表わす次元であり、作品全体を通してその中に広く、全形の“評価”をしているとみたい。

この尺度群は、作品の中での大きな“意味”の部分に独占しているともいえよう。したがって、この次元は「評価性」と命名した。

第Ⅱ次元の尺度群は、日本での評価としての意味あいを考えなくてはならないだろう。“日本的な”が伝統的

注2) 次元命名は、本学法文学部社会学科、心理学 東江平之教授のもとで検討され、命名したものである。

につながり、“現代的な”が西洋的で動的な、新しい、力強いというつながりをもった意味として表わされるだろう。つまり、みた印象の強さではないか。一定の枠からはずれて、“躍動的”でカラを破っていくという空間の広がり、時間の短かさ、作品自体に目がうつっている。型破りでアンオーソドックスであるということが力量につながるという解釈ができよう。したがって、この次元は「躍動性」と命名した。

第Ⅲ次元の尺度群については、線の流れがスムーズな表現がわかりやすい、全体としての線がすっきりして、ごてごてしないというように、表現したいものを流線型に表現しているという“明快さ”を示していると思われる。また踊っている人が、舞踊をどの程度こなしているか、意図通りに表現しているかが、軽く、はずんでみえる、という表現したいものとされているものの関係をいっており、技としての線の流れが、ふへん的な形で、うまさまでつながるものであろう。したがって、この次元は「明瞭性」と命名した。

以上のように、鑑賞の単純構造の三つの次元については、第Ⅰ次元は「評価性」、第Ⅱ次元は「躍動性」、第Ⅲ次元は「明瞭性」と命名した。

3 単純構造に含まれない尺度について

ここで、単純構造に含まれない尺度についてみると、“楽しい”が、第Ⅰ次元に0.575、第Ⅱ次元に0.515、第Ⅲ次元で、0.580の得点を示し、三つの次元にわたっていた。

“むづかしい”は、第Ⅰ次元で、0.515、第Ⅲ次元で-0.661、“個性的な”が第Ⅰ次元で0.608、第Ⅲ次元で-0.531、“変化がある”は、第Ⅰ次元で0.566、第Ⅱ次元で0.649の得点を得ている。“軽快な”は第Ⅱ次元で0.713、第Ⅲ次元で0.616であり、“大きい”は第Ⅰと第Ⅱ次元でそれぞれ0.552、0.651の得点であった。

また、“独特な”と“特異な”は、共に第Ⅲ次元でそれぞれ-0.613、-0.669、第Ⅳ次元で、0.646、0.595という得点になっている。“抽象的な”は、第Ⅴ次元で±0.5以上の基準に合致して表われていた。

以上の9種の尺度については、抽出基準±0.5以上という条件はみたしているが、2つ以上の次元に得点されたいわゆる複雑性を示していること、意味が不明瞭であること、しかも全体としてみた場合、これらの尺度を除外しても安定した尺度が得られるとの解釈のもとで、結論として除外して扱ってきたい。

以上の結果、単純構造として得られた三つの次元は、

独立直交関係を維持しているので、それらでユークリッド幾何学空間を構造していると考えられる。

これらの次元によって規定される空間内に作品を位置づけることによって、作品相互の関係を検討することを可能にする。

【2】 作品の比較

1 二次元平面上における作品の比較

Table 3 の次元別作品の平均尺度値によって二次元平面上に20個の作品を位置づけてみることにしよう。

Table 3 次元別作品の平均尺度値

次 元 作 品	次 元		
	I	II	III
① か せ か け	4.14	4.54	4.71
② 浜 千 鳥	3.45	4.16	3.59
③ 高 平 良 万 才	2.96	3.45	3.31
④ 叙情詩風の作品A	5.45	3.49	4.11
⑤ 叙情詩風の作品B	3.78	3.97	3.56
⑥ ボールによる試み	2.74	3.37	2.96
⑦ スティックダンス	2.66	3.23	2.74
⑧ Solo ダンス	3.25	3.70	4.26
⑨ Duet ダンス	3.15	3.49	3.86
⑩ パッサカリアとフーガ	3.36	5.14	3.60
⑪ 相互に感じ合って動きを創る	4.39	4.10	4.15
⑫ Dance of Koto music	3.69	4.04	4.11
⑬ フ ァ ス ト	4.03	4.62	3.53
⑭ 美 し き 天 然	4.55	4.70	4.03
⑮ こ ま の 動 き	3.54	3.86	3.05
⑯ 荒城の月夜奏曲	2.60	3.42	3.21
⑰ 太陽とともに	3.62	3.25	3.26
⑱ 青 年	2.75	2.91	3.97
⑲ 花 冠 舞	3.70	4.43	3.94
⑳ ニ 僧 舞	4.12	4.37	4.52

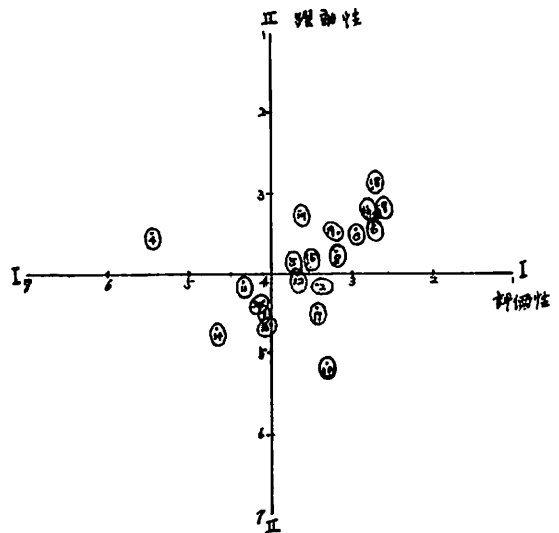


Fig 1 第Ⅰ次元「評価性」を横軸とし、第Ⅱ次元「躍動性」を縦軸とする平面上における作品の位置

Fig 1 の「評価性」次元と「躍動性」次元の舞踊空間における作品をみると、作品18「青年」がよい評価を得ている。作品16「荒城の月夜奏曲」作品7「スティックダンス」作品6「ボールによる試み」作品3「高平良万才」は「評価性」次元ではかなりよく、「躍動性」次元ではいくらかよい位置にあり、作品18に類似しているとみられる。

「評価性」次元においては、作品18と作品4「叙情詩風の作品A」が対照的な位置にある。「かせかけ」「相互に感じあって動きを創る」「ファスト」「美しき天然」「尼僧舞」は、両次元において類似している。

「叙情詩風の作品A」は、「躍動性」ではややよい位置にあり「評価性」次元では、あまり評価されていない。「叙情詩風の作品B」「Solo ダンス」「Duet ダンス」「太陽とともに」が両次元ともややよいという評価を示している。「パッサカリアとフーガ」は、評価性はややよいが躍動性はやや劣る位置にある。

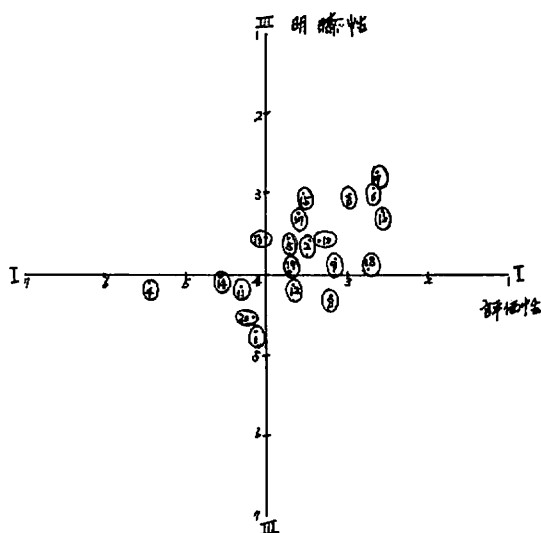


Fig 2 第Ⅰ次元「評価性」を横軸とし、第Ⅱ次元「明瞭性」を縦軸とする平面上における作品の位置

Fig 2では、作品6「ボールによる試み」作品7「スティックダンス」は、「評価性」と「明瞭性」両次元で相互により位置にある。作品2「浜千鳥」作品5「叙情詩風の作品B」作品9「Duet ダンス」作品10「パッサカリアとフーガ」作品15「こまの動き」作品17「太陽とともに」の6つの作品は、両次元ともにややよい。作品18「青年」作品16「荒城の月夜奏曲」作品3「高平良万才」の3つは、「評価性」は相当によく、「明瞭性」においてもややよい位置にある。

作品4「叙情詩風の作品A」は「評価性」では相当に悪く、「明瞭性」ではややよくない位置にある。作品20「尼僧舞」作品1「かせかけ」の2つが両次元においてやや劣る。

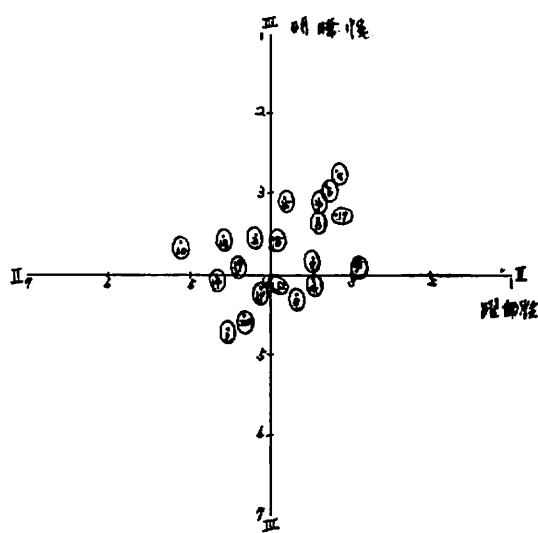


Fig 3 第Ⅱ次元「躍動性」を横軸とし、第Ⅲ次元「明瞭性」を縦軸とする平面上における作品の位置

Fig 3では、「ボールによる試み」「スティックダンス」は、「明瞭性」はよく、「躍動性」はややよい位置にある。作品18「青年」は、「躍動性」は相当によく「明瞭性」はややよい地点にある。

「高平良万才」「叙情詩風の作品B」「Duet ダンス」「こまの動き」「荒城の月夜奏曲」「太陽とともに」の6つは、両次元ともややよい。

作品10「パッサカリアとフーガ」は「躍動性」がかなり悪い。ただし、「明瞭性」はややよい位置にある。

以上のように、各次元の得点平均尺度値によって、二次元平面上に20個の作品を位置づけた。

これは、各作品の第Ⅰ次元における17の尺度の平均点の総和をだして、各作品の第Ⅰ次元における位置としたものである。

ここでは、作品の総体的な位置を問題としている。いわゆる概念（舞踊作品）の各次元上の平均値で個々の作品のポジションとするものであり、軸がはっきりしている座標軸での作品の比較である。

Table 4

作品間の距離(D値)

作 品 名	① かせ かけ	② 浜 千 鳥	③ 高 平 良 万 才	④ 叙 情 詩 風 の 作 品 A	⑤ 叙 情 詩 風 の 作 品 B	⑥ ボ ー ル に よ る 試 み	⑦ ス テ ィ ッ ク ダ ン ス	⑧ ソ ロ ダ ン ス	⑨ デュ エ ット ダ ン ス	⑩ パ ッ サ カ リ ア と フ ー ガ	⑪ 相 互 に 感 じ 合 っ て 動 き を 創 る	⑫ ダ ン ス オ ブ コ ト ミ ュ ジ ック	⑬ フ ァ ス ト	⑭ 美 し き 天 然	⑮ こ ま の 動 き	⑯ 荒 城 の 月 変 奏 曲	⑰ 太 陽 と と も に	⑱ 青 年 舞	⑲ 花 冠 舞	⑳ 尼 僧 舞
① かせかけ																				
② 浜千鳥	1.37																			
③ 高平良万才	2.14	.90																		
④ 叙情詩風の作品A	1.75	2.17	2.61																	
⑤ 叙情詩風の作品B	1.43	.37	1.00	1.84																
⑥ ボールによる試み	2.53	1.22	.40	2.94	1.33															
⑦ スティックダンス	2.79	1.48	.66	3.12	1.56	.22														
⑧ Solo ダンス	1.31	.83	1.01	2.22	.92	1.99	1.68													
⑨ Duet ダンス	2.16	.75	.52	2.31	.81	.93	1.19	.48												
⑩ パッサカリアとフーガ	1.47	.97	1.77	2.70	1.24	2.17	2.20	1.59	1.67											
⑪ 相互に感じ合っ て動きを創る	1.28	1.09	1.78	1.22	.86	2.16	2.39	1.22	1.42	1.56										
⑫ Dance of Koto music	.90	.58	1.24	1.84	.55	1.63	1.89	.57	.82	1.25	.70									
⑬ ファスト	1.19	.72	1.24	1.91	.69	1.87	2.09	1.41	1.44	.83	.88	.87								
⑭ 美しき天然	.80	1.30	2.14	1.50	1.16	2.48	2.72	1.65	1.85	1.33	.60	1.07	.73							
⑮ こまの動き	1.89	.60	.74	2.20	.55	.93	1.12	1.24	.91	1.41	1.41	1.08	1.01	1.63						
⑯ 荒城の月変奏 曲	2.42	1.17	.34	2.95	1.33	.26	.50	1.24	.59	1.91	2.13	1.53	1.88	2.46	1.03					
⑰ 太陽とともに	2.02	.97	.68	2.03	.78	.93	1.09	1.15	.76	1.99	1.45	1.09	1.45	1.88	.64	1.03				
⑱ 青 年	2.26	1.48	.87	2.77	1.89	1.11	1.26	.95	.71	2.34	2.03	1.47	2.17	2.53	1.53	1.91	1.17			
⑲ 花 冠 舞	.88	.50	1.38	1.91	.60	1.73	2.25	.91	1.09	.84	.78	.41	.54	.88	1.06	1.66	1.37	1.79		
⑳ 尼 僧 舞	.24	1.15	1.90	.37	1.08	2.30	2.55	1.12	1.47	1.40	.50	.65	1.01	.72	1.64	2.20	1.75	2.07	.69	

2 作品間の距離(D値)について

D値は $D_{AB} = \sqrt{\sum d^2_{ab}}$ 、但し、 d_{ab} は a と b の 2 概念を代表する意味空間における 2 点間の直線距離を指し、 d_{ab} は 2 概念の同一次元における座標の算術的差を示し K 個の次元 (Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ次元) におよんで求められている。

20 個の作品および作品間の距離 D 値は、Table 4 に示

す通りで、分散は、0.22～0.12 を示している。この表でみると、作品間で最も近接しているものは、作品 7 「スティックダンス」作品 6 「ボールによる試み」作品 16 「荒城の月変奏曲」である。逆に、最も遠い距離にある作品は、作品 7 「スティックダンス」と作品 4 「叙情詩風の作品 A」である。

金城光子・大城昭子：舞踊の鑑賞構造に関する研究〔Ⅱ〕

Table 5-a

D値 作品名	0～0.49	0.50～0.99	1.00～1.49	1.50～1.99	2.00～2.49	2.50～2.99	3.00～3.49
① かせ かけ Ⅰ 4.14 Ⅱ 4.54 Ⅲ 4.71	20(0.24)	12(0.90) 14(0.80) 19(0.88)	2(1.37) 5(1.43) 8(1.38) 10(1.47) 11(1.28) 13(1.19)	4(1.75) 15(1.89)	3(2.14) 9(2.16) 16(2.42) 17(2.02) 18(2.26)	6(2.53) 7(2.79)	
② 浜 千 鳥 3.45 4.16 3.45	5(0.37)	3(0.90) 8(0.83) 9(0.75) 10(0.97) 12(0.58) 13(0.72) 15(0.60) 17(0.95) 19(0.50)	1(1.37) 6(1.22) 7(1.48) 11(1.09) 14(1.30) 16(1.17) 18(1.48) 20(1.15)		4(2.17)		
③ 高 平 良 万 才 2.99 3.45 3.31	6(0.40) 16(0.34)	2(0.90) 7(0.66) 9(0.52) 15(0.74) 17(0.68) 18(0.87)	5(1.00) 8(1.01) 12(1.24) 13(1.24) 19(1.38)	10(1.77) 11(1.78) 20(1.90)	1(2.14) 14(2.14)	4(2.61)	
④ 叙 情 詩 作 風 品 のA 5.45 3.49 4.11	20(0.37)		11(1.22)	1(1.75) 5(1.84) 12(1.84) 13(1.91) 14(1.50) 19(1.91)	2(2.17) 8(2.22) 9(2.31) 15(2.20) 17(2.03)	3(2.61) 6(2.94) 10(2.70) 16(2.95) 18(2.77)	7(3.12)
⑤ 叙 情 詩 作 風 品 のB 3.78 3.97 3.56	2(0.37)	8(0.92) 9(0.81) 11(0.86) 12(0.55) 13(0.69) 15(0.55) 17(0.78) 19(0.60)	1(1.43) 3(1.00) 6(1.33) 10(1.24) 14(1.16) 16(1.33) 20(1.08)	4(1.84) 7(1.56) 18(1.89)			

注1) 各作品の下に記された数字は意味空間における当該作品の位置を示すもので、それぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲ次元の座標を表わす。
但し、4は中性または中央を意味し、Ⅰに近づく程「よりよい」「より魅力がある」ことを、また、逆に4を越える程「よくない」「より魅力がない」ことを意味する。

琉球大学教育学部紀要第16集

Table 5-b

D 値 作品名	0～0.49	0.50～0.99	1.00～1.49	1.50～1.99	2.00～2.49	2.50～2.99	3.00～3.49
⑥ ボール による試 み { 2.74 3.37 2.96	3(0.40) 7(0.22) 16(0.26)	9(0.94) 15(0.93) 17(0.93)	2(1.22) 5(1.33) 18(1.11)	8(1.89) 12(1.63) 13(1.87) 19(1.73)	10(2.17) 11(2.16) 14(2.48) 20(2.30)	1(2.53) 4(2.94)	
⑦ ステ イ ッ ク ダ ン ス { 2.66 3.23 2.74	6(0.22)	3(0.66) 16(0.50)	2(1.48) 9(1.19) 15(1.12) 17(1.09) 18(1.26)	5(1.56) 8(1.68) 12(1.89)	10(2.20) 11(2.39) 13(2.09) 19(2.25)	1(2.79) 14(2.72) 20(2.55)	4(3.12)
⑧ ソ ロ ダ ン ス { 3.25 3.70 4.26	9(0.48)	2(0.83) 5(0.92) 12(0.57) 18(0.95) 19(0.91)	1(1.31) 3(1.01) 11(1.22) 13(1.41) 15(1.24) 16(1.24) 17(1.15) 20(1.12)	6(1.99) 7(1.68) 10(1.59) 14(1.65)	4(2.22)		
⑨ デュ エ ッ ト ダ ン ス { 3.15 3.49 3.86	(0.48) 19(1.09)	2(0.75) 3(0.52) 5(0.81) 6(0.94) 12(0.82) 15(0.91) 16(0.59) 17(0.76) 18(0.71)	7(1.19) 11(1.42) 13(1.44) 20(1.47)	10(1.67) 14(1.85)	1(2.16) 4(2.31)		
⑩ パ ッ サ カ リ フ ア ー と ガ { 3.36 5.14 3.60		2(0.97) 13(0.83) 19(0.84)	1(1.47) 5(1.24) 12(1.25) 14(1.33) 15(1.41) 20(1.40)	3(1.77) 8(1.59) 9(1.67) 11(1.56) 16(1.91) 17(1.99)	6(2.17) 7(2.20) 18(2.34)	4(2.70)	

金城光子・大城昭子：舞踊の鑑賞構造に関する研究〔Ⅱ〕

Table 5 - c

D値 作品名	0～0.49	0.50～0.99	1.00～1.49	1.50～1.99	2.00～2.49	2.50～2.99	3.00～3.49
⑪ 相互に 動きを 感じ合 つて る 4.39 4.10 4.15		5(0.86) 12(0.70) 13(0.88) 14(0.60) 19(0.78) 20(0.50)	1(1.28) 2(1.09) 4(1.22) 8(1.22) 9(1.42) 15(1.41) 17(1.45)	3(1.78) 10(1.56)	6(2.16) 7(2.39) 16(2.13) 18(2.03)		
⑫ ダン スミ ュ ス オ ブ ジ コ ッ ク 3.69 4.04 4.11	19(0.41)	1(0.90) 2(0.58) 5(0.55) 8(0.57) 9(0.82) 11(0.70) 13(0.87) 20(0.65)	3(1.24) 10(1.25) 14(1.07) 15(1.08) 17(1.09) 18(1.47)	4(1.84) 6(1.63) 7(1.89) 16(1.53)			
⑬ ファ ス ト 4.03 4.62 3.53		2(0.72) 5(0.69) 10(0.83) 11(0.88) 12(0.87) 14(0.73) 19(0.54)	1(1.19) 3(1.24) 8(1.44) 9(1.44) 15(1.01) 17(1.45) 20(1.01)	4(1.91) 6(1.87) 16(1.88)	7(2.09) 18(2.17)		
⑭ 美 し き 天 然 4.55 4.70 4.03		1(0.80) 11(0.60) 13(0.73) 19(0.88) 20(0.72)	2(1.30) 5(1.16) 10(1.33) 12(1.07)	4(1.50) 8(1.65) 9(1.85) 15(1.63) 17(1.88)	3(2.14) 6(2.48) 16(2.46)	7(2.72) 18(2.53)	
⑮ こ ま の 動 き 3.54 3.86 3.05		2(0.60) 3(0.74) 5(0.55) 6(0.93) 9(0.91) 17(0.64)	7(1.12) 8(1.24) 10(1.41) 11(1.41) 12(1.08) 13(1.01) 16(1.03) 19(1.06)	1(1.89) 14(1.63) 18(1.53) 20(1.64)	4(2.20)		

琉球大学教育学部紀要第16集

Table 5-d

D値 作品名	0～0.49	0.50～0.99	1.00～1.49	1.50～1.99	2.00～2.49	2.50～2.99	3.00～3.49
⑯ 荒城の月変奏曲 2.60 3.42 3.21	3(0.34) 6(0.26)	7(0.50) 9(0.59) 18(0.91)	2(1.17) 5(1.33) 8(1.24) 15(1.03) 17(1.03)	10(1.91) 12(1.53) 13(1.88) 19(1.66)	1(2.42) 11(1.23) 14(2.46) 20(2.20)	4(2.95)	
⑰ 太陽とともに 3.62 3.25 3.26		2(0.97) 3(0.68) 5(0.78) 6(0.93) 9(0.76) 15(0.64)	7(1.09) 8(1.15) 11(1.45) 12(1.09) 13(1.45) 16(1.03) 18(1.17) 19(1.37)	10(1.99) 14(1.88) 20(1.75)	1(2.02) 4(2.03)		
⑱ 青 年 2.75 2.91 3.97		3(0.89) 8(0.95) 9(0.71) 16(0.91)	2(1.48) 6(1.11) 7(1.26) 12(1.47) 17(1.17)	5(1.89) 15(1.53) 19(1.79)	1(2.26) 10(2.34) 11(2.03) 13(2.17) 20(2.07)	4(2.77) 14(2.55)	
⑲ 花 冠 舞 3.70 4.43 3.94	12(0.41)	1(0.88) 2(0.50) 5(0.60) 8(0.91) 10(0.84) 11(0.73) 13(0.54) 14(0.88) 20(0.69)	3(1.38) 9(1.09) 15(1.06) 17(1.37)	4(1.91) 6(1.73) 16(1.66) 18(1.79)	7(2.25)		
㉑ 尼 僧 舞 4.12 4.37 4.52	1(0.24) 4(0.37)	11(0.50) 12(0.65) 14(0.72) 19(0.69)	2(1.15) 5(1.08) 8(1.12) 9(1.47) 10(1.40) 13(1.01)	3(1.90) 15(1.64) 17(1.75)	6(2.30) 16(2.20) 18(2.07)	7(2.55)	

次に Table 5・aからTable 5—dまでの表を用いて、作品間の関係を検討してみよう。

作品1「かせかけ」と最も接近しているものに作品20の「尼僧舞」0.24がある。これは、「かせかけ」と同様に民族舞踊に属するものである。それに対して、作品6、7のより明瞭性の高い「ボールによる試み」「スティックダンス」などは遠隔に位置している。

作品2の「浜千鳥」には、評価性、明瞭性ともに近似値を示している「叙情詩風の作品B」0.37が最も近く、「叙情詩風の作品A」が遠距離を示している。

作品3「高平良万才」では、作品6「ボールによる試み」と作品16「荒城の月夜奏曲」が接近しているが、作品4「叙情詩風の作品A」とは3.12の距離をもっている。

作品4「叙情詩風の作品A」は、作品20「尼僧舞」に近く、「スティックダンス」に距離がみられる。

作品5「叙情詩風の作品B」から離れている作品は、D値1.89の「青年」、1.84の「叙情詩風の作品A」である。

作品6、作品16、作品7は、作品3「高平良万才」とともに評価性がより高く、D値による間隔も小さい。逆に作品4「叙情詩風の作品A」には、2.50～2.59の距離を示している。

作品8、9の「Solo ダンス」「Duet ダンス」は互いに0.48でもっとも接近した位置にあるが、評価性の少ない値をもっている。

作品10ドイツの「パッサカリアとフガ」により接近している作品は見あたらないが、遠い位置にある作品に

は、イギリスの「叙情詩風の作品A」がある。

作品11「相互に感じあって動きを創る」、作品13「ファスト」作品14「美しき天然」はより接近しあっているが、共に評価性が高い。作品18の「青年」、「スティックダンス」には遠い距離を示している。

作品12アメリカの「Dance of Koto music」には、民族舞踊である韓国の「花冠舞」が近い距離にある。

作品15の「こまの動き」により高い接近度をもっている作品は見られないが、遠隔にある作品は、評価性の少ない「叙情詩風の作品A」がある。

作品17「太陽とともに」、18の「青年」には、近似性の作品は見あたらないが、作品18「青年」に最も遠い距離にある作品には、評価性の少ない「叙情詩風の作品A」と「美しき天然」が位置している。

以上のように、各作品のD値による作品間の距離をみた。これは、座標軸がはっきりしている次元上の軸による作品の比較と違って、いわゆる線上における作品間の近遠の距離による、軸なし比較であった。

【3】 新尺度の試作

Table 2 に示した舞踊鑑賞の単純構造の表から、新尺度における順位番号のついた尺度を舞踊の鑑賞に用いる評定尺度として採用し、Table 6 に示すような「新尺度表」を作成した。

ただし、ここでは、31尺度のうち、第29番目の“一貫した”の尺度は、この次元における“意味”があいまいであるという理由のもとに割愛し、合計30の尺度によって、対語表を作成した。

Table 6

舞踊の鑑賞評定尺度

NO.	作品名	評定者番号
	<div> 非常 に 相 当 に い く ら か い く ら か い く ら か 相 当 に 非 常 に </div>	
1	よ	よくない
2	鬼力があふ	鬼力がな
3	うま	へたな
4	見込があふ	見込がな
5	すぐれている	劣っている
6	現代的な	古典的な
7	日本的な	西洋的な
8	動的な	静的な
9	叙情的な	叙情的でない
10	素直な	いじはりな
11	生々しい	生々しくない
12	明る	暗
13	満足できる	ものたりない
14	激しい	激しくない
15	興味深い	興味がな
16	美し	みにく
17	効果的な	効果がない
18	鮮やかな	鮮やかでない
19	印象的	印象がな
20	おもしろ	つまらない
21	はげし	おだやかな
22	新し	古かしい
23	正統的な	正統でない
24	力強い	弱
25	劇的	劇的でない
26	奇抜な	奇抜でない
27	まじまじ	まじまじでない
28	静かな	はなやかな
29	視覚的	聴覚的
30	明確な	あいまいな

※ 尺度1～5, 13～22, 27, 18, 30は評価性次元, 6～9, 21～24, 29は運動性,
10～12, 25, 26は明瞭性・意味次元を表現するものである。

Table 6 の新尺度を用いて舞踊作品を鑑賞させ、その結果を三つの次元「評価性」「躍動性」「明瞭性」における作品の鑑賞プロフィール（鑑賞・評価構造）を明らかにすることを可能にするものである。

Ⅳ 総 括

舞踊という概念の分析を試み、舞踊の鑑賞構造の解明のために、舞踊に用いられた“ことば”（鑑賞語）を評定尺度として、Osgood の意味微分法を適用することによって、舞踊の鑑賞評定尺度の確立をめざしてこの研究をすすめてきた。

それは、20個の舞踊作品を刺激対象として、40の尺度によって、48人の評定者に評定させた。その結果の評定点の平均値を舞踊作品の個々の特性を表わすものと解し20作品をプールにしたデータ処理を施した。すなわち、Direct Varimax 法による尺度のグルーピングを行なった。

その結果、第Ⅲ次までの舞踊鑑賞の単純構造が得られた。

三つの次元の単純構造の内容を検した結果、第Ⅰ次元は「評価性」第Ⅱ次元は「躍動性」第Ⅲ次元は「明瞭性」と命名した。

この三つの次元は、独立直交関係を維持していることから、それらでユークリッド幾何学空間を構造をしていると考え、これらの次元によって規定される空間内に20個の作品を位置づけた。

また、三つの次元の総和による線上の距離D値によって、作品間の近遠距離の状態をみた。

すなわち、三つの次元の舞踊空間の中における作品の相互の関係は、より力量感があり、動きが明瞭である作品は、高い評価がなされていることが明らかとなった。

さらに、D値による作品間の距離では、「評価性」「躍動性」「明瞭性」の三つの次元の近似値にある作品は、相互に近い距離にあることが明らかにされた。

以上のように、本研究の結果から舞踊の鑑賞構造が明らかにされ、舞踊の因子（構造）が確定的になったといえるだろう。

このことは、本研究の仮説としての“舞踊空間”が設定されたこと、舞踊の共通的な鑑賞構造が確認されたこと、標準化された舞踊の鑑賞尺度の試作ができたことによって、鑑賞構造の解明を明確にする試みをたしかなものにしたことになるだろう。

しかしながら、これらの結果は、今後の追跡研究によって、いわゆる鑑賞構造の比較検討をすることで、より

一層、明確な解明へと高めることができるだろうと思われる。

Ⅴ 将来への展望

この種の研究は、尺度（形容語）、概念（舞踊作品）評定者の三者の交互作用によって成立されるものといわれている。

そこで、本研究に用いられたこれら三者について検討し、今後の課題としたい。

① 尺度について

本研究に用いた尺度は、モダンダンスの批評文から抽出した“批評のことば”（鑑賞・評価語）を用いたものであった。

舞踊の評定語（形容語）としての尺度は、あらゆる舞踊ジャンルに用いられたものとしての“ことば”を広く舞踊全般にわたって収集される必要があると思われる。

例えばバレエ・日本舞踊などに用いられる鑑賞のことばを収集すること。また、方法の一つとして、連想法によることば収集方法をあげることができよう。

② 舞踊作品について

刺激対象として用いた20個の作品は、第6回国際女子体育会議で発表されたものの収録フィルムを用いた。その内容は、日本の学校におけるダンス、英国、アメリカ、ドイツの学生による作品、琉球舞踊、韓国舞踊であった。ソロ、デュエット、トリオ、グループダンスと内容的に豊富であったが、大体は教育の中における舞踊という枠内のものであったように思われる。このことについても、広く舞踊芸術の領域におよぶ多数の作品を用いることが必要とされるだろうと思われる。

③ 評定者について

本研究の調査対象は、琉球大学の学生という、地域的な限定があった。

評定者の鑑賞の限と使用する“ことば”の形容および数の多少については、経験と地域差があると思われる。

このことについては、上記の尺度、舞踊作品と同様に今後の大きな課題として残されていると思われる。

付 記

稿を終えるに当たって、多大なる指導をいただいた、琉球大学法文学部社会学科心理学東江平之教授をはじめ、協力をいただいた石川高等学校非常勤講師大城宜武氏、

琉球大学教育学部紀要第16集

本学教育学部体育科徳村スミ子さん、他面からのご協力を得た本学法文学部社会学科の比嘉光代先生に対して、厚くお礼申し上げます。

データの処理については、DOKAI 計算部の方々の協力を得ました。誌上をもって感謝の意を表したいと思えます。

※各舞踊作品の「踊り場面写真」は、〔研究Ⅰ〕の末尾に示したとおりである。

文 献

- 1) 東江平之 S・D法による大学生の自己観と環境観 人文社会科学研究第4号
- 2) 東江平之 概念間距離とその変遷 人文社会科学研究第9号 (1971年)
- 3) 新垣博子 文沢義永 中学生の食物に対する嗜好度の地域差 琉球大学教育学部紀要第14集
- 4) 相良守次編 現代音楽心理学 芸術と心理 芸術心理学講座Ⅰ 東京中山書店 (1957)
- 5) 猪俣公宏 体育学研究第16巻第1号 知覚運動学習に関する因子分析的研究 日本体育学会(昭和46年)
- 6) 入谷敏男 言語心理学 誠信書房 101(昭和39年)
- 7) 岩原信九郎 教育と心理のための推計学 日本文化学社 (1970)
- 8) 梅本堯夫 音楽心理学 誠信書房 (昭和41年)
- 9) 梅本堯夫 連想基準法 東京大学出版会 (1969)
- 10) M・デュヴェルジュ著 深瀬忠一 樋口陽一訳 社会科学の諸方法 勁草書房 (1968)
- 11) Osgood, C. E: The Measurement of Meaning, Urbana,: University of Illinois Press. (1958)
- 12) 大山良徳 体育学研究第13巻第1号 運動能力の発達に關与する諸要因の因子分析的研究 日本体育学会 (昭和43年)
- 13) 金城光子、松本千代栄、池田裕恵 舞踊の鑑賞価値基準表作成について 日本体育学会第22回大会号144 (昭和46年)
- 14) 芝 祐順 行動科学における相関分析法 東京大学出版会 (1967)
- 15) C・E・オズグッド著 吉田正昭訳編 計量心理学リーディングズ誠信書房 (昭和45年)
- 16) ジョन्दユウイ著 鈴木康司訳 経験としての芸術 春秋社 106 214 (昭和28年)
- 17) G・W・オルボート著 今田恵監訳 星野命 入谷敏男 今田寛訳 人格心理学下 誠信書房(昭和74年)
- 18) 高木貞二 心理学研究法 岩波書店 (1970)
- 19) 谷 祥子 作曲家についてのイメージの分析 相愛女子大学音楽部卒論 (1963)
- 20) 田仲靖政 記号行動論 一意味の科学一 共立出版株式会社 (昭和45年)
- 21) 広田栄太郎 鈴木栄三編 類語辞典 東京堂出版 (昭和45年)
- 22) 三好 稔 心理学と因子分析 誠信書房(昭和37年)
- 23) 国立国語研究所 分類語彙表 秀英出版(昭和46年)
- 24) 心理学研究 音楽的表現の価値判断に関する因子分析的研究 (1961)
- 25) 日本心理学会29回大会編集 音色の因子分析的研究 (1965)
- 26) 日本心理学会 心理学研究第42巻第1号 性格表現語の心理 辞典的研究 455 語の選択 分類および望ましさの評定 (昭和46年)